# 「兼久小学校のあまぎ学（天城町史跡巡り）の学習の取組」

## １　学校名

天城町立兼久小学校

## ２　学年・人数

５年生　６人，６年生　６人（計12人）

## ３　日時・場所

⑴　事前の学習会：令和３年５月～７月　総合的な学習の時間
⑵　史跡巡り　　：令和３年７月14日（水）
　　下原洞穴遺跡，戸森の線刻画，浅間湾屋洞穴（ウンブキ）
⑶　事後のまとめ：令和３年７月　総合的な学習の時間

## ４　活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

⑴　名称・時代
ア　下原洞穴遺跡（したばるどうけついせき）：縄文時代
イ　戸森の線刻画（ともりのせんこくが）：近世
ウ　浅間湾屋洞穴（あさまわんやどうけつ）（通称ウンブキ）：不明

⑵　特徴
ア　下原洞穴遺跡は，縄文時代のお墓や奄美群島で最古の土器が発見された遺跡である。また大量の磨製石鏃が出土しており，工具なども見つかっていることから，磨製石鏃を製作していた場所であったとも考えられている。
イ　戸森の線刻画は三つの岩盤に船や弓矢などの画が線刻によって描かれたもので，現在のところ，このような線刻画は奄美群島で徳之島でしか確認されていない。第一線刻画に最も大きく描かれた船の線刻画は帆が縦線で描かれることから，布帆（木綿帆）が普及した江戸時代以降の船が描かれた可能性が高いと考えられる。
ウ　島口でウンブキと呼ばれる洞穴。約400ｍ以西で海とつながる水中鍾乳洞（海底洞窟）である。2019年，水中探検家・広部俊明氏により，洞窟の奥行きが直線距離にして700ｍあることが確認され，国内最大級の海底鍾乳洞となった。さらに，同氏が洞内から持ち帰った土器には，下原洞穴遺跡の7,000年以前の地層から出土した土器と共通する文様が施されていたことで，注目を集めている。

## ５　保存会や地域との連携の具体

天城町教育委員会の学芸員具志堅亮氏を講師とし，遺跡について，発見した経緯や遺跡からどのような遺物が発見されたのかなどを説明していただいた。

## ６　活用の取組の工夫した点

地域を見つめ直し，育った環境に愛着や誇りをもつことを目的に「あまぎ学」の学習を行っている。今回，遺跡等についても事前学習を行い，質問等をまとめ当日学芸員に質問をした。その後学級で見学したことをまとめた。その学習方法は「われんきゃガイド」（総合的な学習の時間）の学習につながっている。

## ７　取組の様子（学習の様子）

「下原洞穴遺跡」

「戸森の線刻画」

## ８　参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- 下原洞穴遺跡では，縄文時代から天城町に人が住んで暮らしていたことに驚いた。地元の人から大事なものとして守られていたことに感動した。
- 戸森の線刻画は江戸時代の人が後世の人に何かを伝えたくて彫ったのだと思うと興味が湧いてくる。
- ウンブキが海に繋がっているときいて驚いた。自分も潜って調べてみたい。

【教員】

- 自分が生まれ育った地域を調べることで，郷土に誇りをもたせることができた。近年天城町で縄文時代の遺跡が新たに見つかり歴史へのロマンを感じることができる。今後も子どもたちにあまぎ学の学習を通じふるさとの魅力を伝えていきたいと思う。